

令和5年度庄原市幼保小連携・接続に係る研修会

令和5年11月8日（水） 庄原自治振興センター

アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実践交流、理論研修を通して、幼保小連携・接続について理解を深め、幼児期の保育・教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的に、研修会を行いました。

【実践紹介】「スタートカリキュラム実践について」

庄原市教育委員会教育指導課 指導係長 小谷 綾子
庄原市立東小学校 教諭 益田 珠己



スタートカリキュラム実践のポイントは、①安心して学べる環境構成、②年間計画・週計画の作成・実施、③生活科を中心としたスタートカリキュラムの特性を生かした単元構成です。

このポイントに基づいて、東小学校のスタートカリキュラム実践を紹介するとともに、取組の意図や留意点を、益田教諭が説明しました。

スタートカリキュラムは1年担任だけが行うのではなく、学校全体で取り組むこと、スタートカリキュラム計画作成や実施にあたっては、保育所等との連携が大切であることを確認しました。

【協議・演習】「アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの改善・充実に向けて」

庄原市教育委員会教育指導課 指導係長 小谷 綾子



保育所や幼稚園での遊び（学び）と小学校での学びは、違いがあります。子供が新しい学校生活に円滑に移行していくためのものがスタートカリキュラムです。子供たちの主体的・対話的で深い学びの実現に向け、各園所で作成しているアプローチカリキュラムと、スタートカリキュラムがつながることが、必要です。

この日は、ブロックごとに、それぞれのカリキュラムのつながりを見直す演習を行いました。

【講話】「一人一人の資質・能力が伸びる連携・接続 —カリキュラムのデザインと実践—」

広島大学 名誉教授 朝倉 淳 氏



接続カリキュラムの必要性や、マネジメントしていく重要性などをお話いただきました。

「子供は安心の中で自己発揮し挑戦することができます。そのために、私達は安心・信頼を組織的につくり、環境や機会を計画的に構成する必要があります。それがカリキュラムであり、カリキュラムは実践されて現実となるのです。」「子供を理解しようとするとき、『子供の目、子供の心で理解する』ことが大切です。」

【参加者の振り返りから】

- ・ 幼保小で子供に身に付けさせたい資質・能力をつなぐ（共有する）意識をもつことが何よりの連携だと思いました。
- ・ 子供の姿はそれぞれ違い、日々成長しているからこそ、カリキュラムの見直しが必要だと感じました。